

第27回男子ハンドボール世界選手権2021エジプト

試合結果報告

試合日 2021年1月23日

メインラウンド

J P N		D E N
17	前半	19
10	後半	15
27	合計	34

戦況

別紙

No.	ポジション	氏名	得点
10	LW	杉岡尚樹	2
12	GK	岩下祐太	
13	PV	笠原謙哉	2
14	CB	北詰明未	
15	LB	部井久アダム勇樹	
18	LB	成田幸平	2
19	RB	徳田新之介	2
20	RB	渡部仁	1
21	LW	土井レミイ杏利	
22	GK	坂井幹	
25	RW	元木博紀	
27	PV	玉川裕康	1
31	LB	吉野樹	3
33	CB	東江雄斗	7
36	RW	出村直嗣	2
38	CB	水町孝太郎	3
39	GK	中村匠	
40	PV	高野颯太	
41	RB	徳田廉之介	1
43	PV	吉田守一	1
合計			27

戦況

世界選手権、メインラウンド2戦目。1997年の世界選手権(熊本大会)以来、実に24年ぶり2度目のメインラウンドに臨む日本代表。相手はリオデジャネイロ・オリンピック金メダル、世界選手権2019金メダルであり、東京オリンピック出場権も獲得しているデンマーク。ドイツ、フランス、スペインを中心に欧州主要リーグのトップクラブでプレーするスター選手を数多く揃え、名実ともに世界一の強豪国。監督は、世界選手権2019で同チームを金メダルに導き、過去にはRhein-Neckar Löwenを率いてドイツブンデスリーガ2連覇を達成したこともあるNikolaj Jacobsen。

この日、日本はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、この日再びメンバー入りした出村が右サイドに、高野が左サイド、ポストに笠原の布陣。守備は、GKに中村、成田と笠原をセンター、2枚目に渡部と高野、1枚目に吉野と出村を配置した「6-0DF」でゲームスタート。この大会は試合毎に16名のベンチ入りメンバーを選べるため、この日のベンチアウトはこれまでのプレー時間が長くなった土井、元木、岩下を外して、代わりに、フレッシュな杉岡、出村、坂井をメンバー登録。キャプテンは渡部が務める。

立ち上がり、日本はコンビネーションから笠原のポストで先制。その後も、日本もGK中村の好セーブから速攻で吉野、成田の速攻、笠原のポストなどで、得点を重ねる。事前の分析通り、デンマークDFの弱点を突くコンビネーションからシュートまで到達するも、現在最高のGKと言われるNiklas Landin(THW Kiel所属)にシュートをセーブされるケースが多くなる。デンマークは、クイックスタートを含む速攻を中心に攻め、セットオフenseでは優位な体格を駆使して「プラス1」の状態を創出し、Magnus Landin(THW Kiel所属)、Lasse Svan(SG Flensburg所属)のサイドなど、基本に忠実なプレーで得点を重ねていく。日本も必死に食い下がり、東江の7mスローや水町のカットイン、GK中村の好セーブ、玉川のポストなどでデンマークに引き離されない。出村のインターセプトからの速攻で、前半23分には1点差まで詰め寄る。さらには、北詰のリードからのコンビネーションで杉岡のサイドシュートも決まり、そのまま良い流れに乗りたいたところであったが、日本のDFが機能して速攻に行きたいところを、GK・Niklas Landinにインターセプトされるなどしてリズムに乗れない。しかし、日本はGK中村の再三のファインセーブもあり、17-19で前半を折り返す。

ハーフタイムでは、DFについてじゃ体格に勝る相手をチーム全体で組織的に守ること、また、攻撃では前半に効果的であったコンビネーションについての確認と継続徹底を図り、後半に臨む。

後半、日本はGKを坂井に変えてスタート。DFから速攻に結びつけたいところであったが、速攻の展開中にテクニカルミスが発生させてしまい、チャンスを得点に結びつけられない。また、前半同様にシュートシーンは創出するも、相手GK・Niklas Landinにセーブされ、点差を縮めることができない。それでもGK坂井のファインセーブもあり、日本は攻守両面で崩れることはなく、苦しい時間帯を凌いでいく。後半10分で22-24。その後、退場者も出してしまい、徐々に引き離されていく。しかし、日本は後半残り10分のところでタイムアウトを請求して、以後7人攻撃を仕掛ける。それが奏功し、杉岡のサイド、水町、徳田(新)のカットイン、吉田のポストで得点を重ね粘りを見せるものの、デンマークもMads Mensah(SG Flensburg所属)やLasse Andersson(Füchse Berlin所属)のパワープレーで得点し、27-34で試合終了。

前回大会の覇者・デンマークへの挑戦であったが、パワーに勝る相手に対してDFで劣勢を強いられ、退場者も重なり敗戦となった。しかし、日本GK陣の奮闘もあり、また、攻撃面でも事前の分析で得た知見をミーティングとトレーニングで確認し、実践することができた。さらには、全メンバー16名でプレータイムをシェアしつつ、体力的な問題を抱える事なく、なおかつ、プレーの質を落とさずに60分間、世界王者相手にプレーできたことは、選手層が厚くなりつつあることを証明できたのではないかと感じる。

次戦、アジア王者で、既に東京オリンピック出場を決めているバーレーンとの最終戦。残された時間をリカバリー、リフレッシュ、リラクスの時間に多くを割いて、コンディショニングを整えて臨み、最終戦を勝利で終えたい。